

## 第36回 小学生書道コンクール講評

審査員 佐原 公子

今年も、一生懸命書き上げられたたくさんの作品が寄せられ、一枚一枚の作品からは皆さんの表現する力に触れることができました。子どもらしい元気な字、のびやかな線、丁寧な筆使いで表現された作品が多く見られました。

今年、審査をする際に「基本点画ができているか」、「本文と名前の調和がとれているか」、「字形も整いバランスがとれているか」を重視して作品を選びました。

各学年の作品を書く上でのポイントを書き出しておきます。

### 三年生「山川」

二文字上下で、中心がとれていること。始筆の入り方の角度が、「山」も「川」も揃うよう、空間のバランスもよく見て書くといいでしょう。

### 四年生「大地」

「大」の右払い、左払いをのびやかに、かつ丁寧に書くこと。「地」の横画の右上がり揃えることがポイントです。

### 五年生「自然」

「自」の横画の空間を同じ広さに揃えること、「然」の三本の左はらいの方向を書き分けること。また、最後の点の打ち方にも注意して書きましょう。

### 六年生「風景」

「風」の風がまえの形で、字の形、中心が変わってしまうので、バランス良く書くこと。「景」は横画の太細の書き分けが重要です。

基本点画、とめ、はね、はらい、横画、縦画の方向など、基本に忠実に書かれており、余白のバランスがとれている作品はとても美しいと思います。活字では表現できない、毛筆ならではの魅力は、多彩な表現力と線の美しさです。美しい作品を仕上げるために、基本に重きをおいて、丁寧に書く事を心がけ、日々の練習を続けて下さい。また、来年、皆さんの練習の成果を見られる事を楽しみにしています。

【最優秀賞講評】

三年生 永井晃誠

始筆、終筆がしっかり書かれ、空間の美しさに目を惹かれました。作品全体のバランスも良く書かれています。

四年生 小出葵

「大」の字の伸びやかに美しくはられています。「地」の字は最後まで丁寧<sup>ていねい</sup>に筆を運んでおり、字形も美しくまとまっています。

五年生 天野匠

二文字の字形のバランス、太細の変化と、生き生きとした作品で、筆運びに迷いがなく、練習の成果が実を結びましたね。

六年生 天野愛海

作品全体、名前、線や空間の細部までバランス良く書かれており、洗練された美しさを感じる作品に仕上がりました。